

福島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本史Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0009		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	ビジネスコミュニケーション学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	山川出版『詳説日本史』、詳説日本史学習ノート(上・下)				
担当教員	田淵 義英				
到達目標					
①歴史を学ぶ意義について理解している。 ②日本の古代から現代までの基礎的な歴史的事実を理解している。 ③歴史を知識ではなく解釈として理解することが出来る。 ④現代社会を理解するためのコンテクストとして歴史を理解することが出来る。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	古代から現代までを通史として学び、現代日本社会の「コンテクスト」として日本史を理解することが出来る能力を養う。				
授業の進め方・方法	定期試験60%、課題40%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。課題は、毎回該当範囲の「詳説日本史学習ノート」に取り組み、指定された期日に提出することとする。				
注意点	課題は上記以外にも適宜課することがある。講義の進捗によってテスト範囲がシラバスとずれることがあるので事前によく確認すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	中世の確立と動揺：実力本位の時代から安定的な身分社会へ④	戦国の混乱から天下統一、徳川幕府による長い安定とその動揺の歴史から、日本の中世史の特徴と意義を理解する	
		2週	中世の確立と動揺：実力本位の時代から安定的な身分社会へ⑤	戦国の混乱から天下統一、徳川幕府による長い安定とその動揺の歴史から、日本の中世史の特徴と意義を理解する	
		3週	日本の近代①	明治時代が近代の到来であることを正しく把握し、ふたつの世界大戦を経て日本の近代がどのように変質したのかを理解する	
		4週	日本の近代②	明治時代が近代の到来であることを正しく把握し、ふたつの世界大戦を経て日本の近代がどのように変質したのかを理解する	
		5週	日本の近代③	明治時代が近代の到来であることを正しく把握し、ふたつの世界大戦を経て日本の近代がどのように変質したのかを理解する	
		6週	日本の近代④	明治時代が近代の到来であることを正しく把握し、ふたつの世界大戦を経て日本の近代がどのように変質したのかを理解する	
		7週	中間総括	前半の総括	
		8週	日本の近代⑤	明治時代が近代の到来であることを正しく把握し、ふたつの世界大戦を経て日本の近代がどのように変質したのかを理解する	
	4thQ	9週	日本の近代⑥	明治時代が近代の到来であることを正しく把握し、ふたつの世界大戦を経て日本の近代がどのように変質したのかを理解する	
		10週	現代の日本①	現代の日本を単なる「戦後」ではなく、後期近代へと突入した社会としてグローバルに位置づけ、その変遷を理解する	
		11週	現代の日本②	現代の日本を単なる「戦後」ではなく、後期近代へと突入した社会としてグローバルに位置づけ、その変遷を理解する	
		12週	現代の日本③	現代の日本を単なる「戦後」ではなく、後期近代へと突入した社会としてグローバルに位置づけ、その変遷を理解する	
		13週	現代の日本④	現代の日本を単なる「戦後」ではなく、後期近代へと突入した社会としてグローバルに位置づけ、その変遷を理解する	
		14週	現代の日本⑤	現代の日本を単なる「戦後」ではなく、後期近代へと突入した社会としてグローバルに位置づけ、その変遷を理解する	
		15週	総括	後半の総括	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	2	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	2	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	2	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	2	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	2	
専門的能力	分野別の専門工学	経済・ビジネス系分野	異文化理解	専門分野における異文化コミュニケーションの具体的事例について評価できる。	1	
				言語が話されている地域の社会的・文化的な背景まで理解した上で言語を使用することができる。	1	
				地球規模で発生している問題の重要性を理解した上で、外国語を用いて調査し、議論することができる。	1	

評価割合

	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	40	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0